

令和4年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校の現状と課題を踏まえ、今年度は2つの項目を重点課題に設定して取り組んだ。各重点課題の目標については、おおむね達成することができた。取組の概要と評価は、以下のとおりである。

- (1) 児童生徒がキャリア形成に向けて、自身の目標とする姿を思い描き、主体的に取り組むための指導・支援の在り方
教科活動、教科外活動（学校行事、清掃等）、学校外の活動（インターンシップ、お手伝い等）について、児童生徒自らが目標を考えてキャリアシートに記載し、活動後に振り返りを行う取組を、一人当たり5～8回行った。キャリアシートを活用した取組によって、児童生徒の気付きや自己理解が生まれ、次への意欲を引き出すきっかけとなった。キャリア教育についての教員の意識も高まり、「見える化」や称賛のコメントなどの支援が効果的であった。
- (2) ICT機器の効果的な活用方法に関する教員の専門的知識と技能の向上
ICT機器の活用に関する校内研修を継続実施することで、タブレット端末にインストールしたアプリやクラウドサービスなどを活用する教員が増えてきた。ICT機器を活用した授業実践事例も今年度20例収集することができ、少しずつICT機器を活用する気運が高まってきた。

7 次年度へ向けての課題と方策

今年度取り組んだ重点課題について、次年度への課題と方策を次のようにした。

- (1) 作成したキャリアシートは、キャリアパスポートファイルにまとめて次年度に引き継げるようにした。今後は、今年度作成したキャリアパスポートを、次年度の行事や活動の前に読み返し、活用できるようにする体制づくりが課題である。
- (2) タブレット端末を授業に積極的に活用する教員が増えてきたが、まだ活用場面が限定的な教員も多い。今後は、より多くの教員がICT機器を効果的に活用できるよう、継続して研修を積み重ねていくとともに、授業における効果的な活用方法や業務の効率化につながる活用方法などの好事例を、教員間で共有し、蓄積していく必要がある。

(様式5) 8 学校アクションプラン

令和4年度 富山県立高岡聴覚総合支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動 ー小学部、中・高等部ー
重点課題	児童生徒が、キャリア形成に向けて、自身の目標とする姿を思い描き、主体的に取り組むための指導・支援の在り方
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、児童生徒が自己理解を深め、自分の課題に気付いて取り組めるよう、学年や学期の始め、また行事等の学習活動の前に目標を立て、終了時に振り返りを行ってきた。しかし、それらの振り返りから、児童生徒が自身の成長や課題に気付き、これからの生き方や進路について主体的に考えるまでには至っていない。 ・基本的生活習慣の形成を課題とする児童、将来の社会生活や家庭生活を思い描くことが難しい生徒など、キャリア形成の実態に差があり、個に応じた取組や支援が必要である。
達成目標	児童生徒がキャリア形成につながる具体的な目標設定と振り返りの活動を行う回数 各学部5回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の意義やキャリアパスポートの活用方法について研修し、教員間で共通理解を図る。 ・児童生徒が振り返りをしやすい学習活動や場面を設定する（教科活動、教科外活動、学校外の活動の3つの視点が含まれるよう設定する）。 ・書くことが苦手な児童生徒でも活用しやすい記録の蓄積の仕方について検討する。 ・学級活動や教科などの時間に、児童生徒自らが目標を設定し、取り組み、振り返る活動を積み重ね、記録を蓄積する。 ・年度末に1年間の成長と課題を振り返りながら、蓄積した記録を整理し、残したいものを選んでキャリアパスポートファイルに綴る場面を設定する。 ・教員間で、児童生徒の変容や成長、今後の課題について情報交換を行う。
達成度	小学部、中・高等部とも5回以上実施
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の意義やキャリアパスポートの活用方法について、学部ごとに研修する機会を設定し、教員間で共通理解を図った。また、1学期の保護者懇談会でキャリアパスポートの作成について説明し、保護者にコメントの協力を依頼した。 ・教科活動、教科外活動（学校行事、清掃等）、学校外の活動（インターンシップ、お手伝い等）について、児童生徒が自ら目標を考えてキャリアシートに記載し、活動後に振り返りをして記録を積み重ねた。 ・キャリアシートを廊下に掲示し、「見える化」を図ったことで、児童生徒自らが目標を意識して取り組み、活動後に達成感を味わうことができた。また、友達の間組を知ることで、新しい知識を得たり、次回への意欲をもったりすることにもつながった。 ・活動後に、教員や保護者がコメントを付箋に書いて、振り返りシートに貼る形式にしたところ、称賛や励ましの言葉、異なる視点からの言葉が多数集まり、コメントを読む楽しみとともに、自己理解を促すきっかけにもなった。
評 価	A 小学部、中・高等部ともにキャリア形成につながる取組を5回以上実施した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が自身で目標を設定して活動した後に、他者からの意見を聞いて振り返るのはとてもよい取組である。他者の意見を聞くことで気付きが生まれる。目標や取組の掲示（「見える化」）も児童生徒に分かりやすくよい。保護者や教員のコメントが温かく、次も頑張ろうという気持ちになる。これからもこの取組を続けていってほしい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度作成したキャリアパスポートを、来年度の行事や活動の前に読み返し、活用できるようにする体制づくりが必要である。 ・教科外活動や学校外の活動での取組が多かったが、来年度は教科活動においてもキャリアシートを作成し、学習面でも自己と向き合わせていきたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和4年度 富山県立高岡聴覚総合支援学校アクションプラン - 2 -

重点項目	その他 ―教務部―	
重点課題	ICT機器の効果的な活用方法に関する、教員の専門的知識と技能の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度からICT推進事業、教員用・生徒用LANの更新、オンライン授業・会議の推進、タブレット端末の配置事業などが行われ、教育環境が整ってきた。 各種の事業によって教員のスキルアップは徐々に図られてきているが、まだまだタブレット端末等のICT機器を学習活動の中で十分活用しているとは言い難く、児童生徒が主体的に学ぶために、障害の特性や実態に対応したICT機器の効果的な活用方法をさらに学ぶ必要がある。 	
達成目標	①外部講師等を活用した 校内研修の実施回数	②ICT機器の活用が効果的であった 授業実践事例の収集
	年3回	事例20例以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師（富山県総合教育センター講師、ICT支援員）を招へいしての校内研修や、本校教員を講師とした校内研修を、計画的に実施する。 クラウドサービスの使用方法をマニュアル化し、使用方法の研修会を行う。 他校の見学や情報交換を通して、ICT活用例を情報収集し、他の教員も参考にできるよう校内研修会で報告する。 ICT機器を活用した授業実践を積極的に行い、効果的であった実践事例を収集して、サーバー内で他の教員が閲覧できるようにする。 	
達 成 度	② 校内研修の実施回数6回	②授業実践事例を20例収集
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 7月に富山県総合教育センターから講師を招へいし、Google Classroom等のクラウドサービスの利用についての校内研修を行った。また、情報通信技術支援員を講師として、Teamsを使ったオンライン授業やGoogleアプリ等についての研修を計5回行った。研修では、回数を重ねるごとに、授業に活用するための具体的な質問が増えてきた。 研修後には、iPadを使用したTeamsとGoogleのクラウドサービス利用方法やオンライン授業の方法のマニュアルを作り、全教員に周知した。 7月に他校のICT研修体制や情報機器活用事例について視察した後、報告会を行った。 ICT機器の活用が効果的であった授業実践事例を20例収集し、サーバー内に保存して共有できるようにした。 全教員にICTに関するアンケート調査を行ったところ、ICT機器の週あたりの平均使用回数が、5月は3.4回であったが11月は4.0回とやや増加した。ほぼ毎日使用している教員もいる一方、インターネットの動画や画像の活用にとどまっている教員や、活用場面が限定的な教員もまだ多く見られた。 	
評 価	B	校内研修を6回実施し、授業実践事例も目標の20例を収集したが、まだICT機器の活用場面が限定的な教員も多く、継続した取組が必要である。
学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用は、聴覚障害者に必要である。生徒が卒業後にすぐに使えるように、今から使っていく必要がある。先生方も先進的な技術を学んでいくことが必要である。 ICT機器は、一人一人の苦手なことを補ってくれる使い方がよい。ICT機器のメリットを生かして上手に使いこなしていくことで世界が広がる。 	
次年度に 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末にインストールしたアプリを授業やオンライン学習で活用するなど、アプリやクラウドサービスを活用する教員が増えてきた。少しずつICT機器を活用する気運は高まってきているが、まだ教員全体に定着してきたとはいえない。今後もICT機器の効果的な活用方法や業務を効率化できる方法を紹介するなど、啓蒙を図る必要がある。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)